主　論　文　要　旨

No.1

報告番号	甲　乙　第　　号	氏　名	市川　　享子

主 論 文 題 目：

大学と地域の協働による循環型学習

（内容の要旨）

地域社会に生じている問題に取り組み、その経験を通して学びを深める大学教育が求められている。これは研究と専門教育という伝統的機能を拡張し、「社会参画する大学」（山田、市川 2015）に変容させることでもある。

本研究では大学生が地域での貢献活動において繰り返しおこなう「リフレクション」において、学生と地域の当事者がどのように地域社会の問題を発見し、問題解決につながる状況を導いたか、「創造的リフレクション」という概念を用いて論じる。その上で、「創造的リフレクション」が生成される場の構造を解明し、大学と地域の効果的な協働モデルを提示した。これにより、大学と地域の協働による問題発見・解決学習の構造を明らかにし、地域社会の持続的発展と学生の主体的な学びの好循環を生み出すためのプログラム開発に必要な知見を明らかにするという研究目的をもって進められた。

本研究から得られた知見は、以下の４点である。

第１に、本研究はこれまで「学習する主体」に限定されていたリフレクション理論を拡張し、場において、当事者の潜在的なニーズの発見を支援し、充足に向けて枠組みを提示して関与することを目指して行うリフレクションを「創造的リフレクション」と概念化した。

第２に、大学と地域の効果的な協働の場についての知見である。場とは「一定の共同性を有する地域社会を背景にもち、公的性格を有する地域内の責任主体と大学が見守るなかで、当事者のニーズの明確化と充足を支援する学生ボランティア活動が展開できるように形成された活動領域」である。専門システムを基盤にした場の形成は、その場で発見される当事者ニーズに枠組みが与えられしまう可能性がある。場の本質が開花し、問題発見・解決が促される場とは、当事者と協働で形成され、なるべく専門システムを基盤にせず、できるだけ地域社会の共同性に近いところに設定される場である。

第３に、当事者ニーズとは、社会福祉領域におけるニーズ論（Bradshaw,1972）に対峙する概念であり、専門システムに依拠した規準でニーズとその充足方法を規定せず、当事者と学生ボランティアで探索され、双方向の関係と交渉の産物として、発見・充足される構造を有するものと位置づけた。

第４に、大学と地域の協働による問題発見・解決学習とは、当事者と学生がともに新しい問題の捉え方を模索・発見し、新しい解決方法を見出すという、協働性と循環性を備えた生成的な学習である。

【キーワード】創造的リフレクション、当事者ニーズ、協働、場、
問題発見・解決学習、社会参画する大学、学生ボランティア